

令和8年度 シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	必修・選択	単位数	2
教科書・副教材等	改訂版 新編 現代の国語（数研出版）					
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現		c. 主体的に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
評価の方法	上記3つの観点について、授業への出席状況、授業中の態度、課題等の提出状況、発表の仕方や内容、定期考査等から総合的に評価を行う。					
	単元		主な学習内容			
前期	他者と関わる 対比を読み取る 社会の中で生きる 言葉の働きをとらえる 話し言葉の技術		「学び始める春」 ・熟語 「風が通るとき」 「水の東西」 「里山物語」 ・対義語 「目指す世界の地図を作る」 「一歩でも動く」 ・類義語 「世間話はなぜするか」 「コインは円形か」 ・同音異義語・同訓異字 ・スピーチ ・ディベート・討議 ・プレゼンテーション			
後期	考えを表現する 情報と向き合う 筆者の主張を読み取る 社会の中の文章 書き言葉の技術		「立場や考えを明確にして話し合う」 「『羅生門』の最後の一文」 「広告コピーを書く」 「新聞記事の構成・表現の工夫をとらえる」 ・慣用句 「SNSに偶然はあるのか」 「『差』という情報」 「『異文化を理解する』とは」 「会話という営み」 「『わらしべ長者』の経済学」 ・ことわざ・故事成語 「根拠の妥当性を説明する」〈商品レビュー〉 「適切な書式で通知する」〈手紙・メール〉 「必要な情報を整理して書く」〈手順書〉 「文章の構成を工夫して提案する」〈企画書〉 ・文章構造を理解する ・要約する ・比較する ・意見文を書く			